

1 この作品の結末部分は、当初「下人は、すでに、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつつあった」と書かれていたが、後に「下人の行方は、誰も知らない」と書き換えられた。このことによって読者の印象はどのように変わるか。話し合ってみよう。

① 「下人は、すでに、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつつあった」という描写と、「下人の行方は、誰も知らない」という描写とは、「下人」のその後にどのような違いが出るか。

② ①で考察した「下人」の描かれ方の違いは、読者の側に立てば、どのような印象の違いが生まれるか。

2 「下人」はこの後どうしただろうか。自分の考えを文章にまとめてみよう。

① 「学習2」を用いて、「下人」の人物像をまとめる。

② 「下人」の人物像や、「言語活動1」で考察した作品末尾の改稿を踏まえて、「下人」のその後について、自分の考えをまとめる。

1 「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」は、『羅生門』のあらすじの素材となった話である。これを踏まえて、次の(1)・(2)を考えてみよう。

(1) 「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語」には、「発問1・2」で確認した『羅生門』との相違がある。これらの相違は、『羅生門』にどのような効果をもたらしているか。

① 「発問1」で確認した『羅生門』との違いは、どのようなものだったか。

② 「発問1」で確認した違いは、『羅生門』にどのような効果をもたらしているか。

③ 「発問2」で確認した『羅生門』との違いは、どのようなものだったか。

④ 「発問2」で確認した違いは、『羅生門』にどのような効果をもたらしているか。

(2) 「発問1・2」で確認した以外で『羅生門』と異なる点を、一覧にして書き出してみよう。

① 次の観点から検討する。

【時間帯】

【天候】

【羅城門（羅生門）付近の様子】

【男（下人）が羅城門（羅生門）に登った理由】

【嫗（老婆）が死人の髪を抜く様子】

【男（下人）が嫗（老婆）を襲った理由】

【嫗（老婆）に髪を抜かれる女の境遇】

【男（下人）に襲われたときの嫗（老婆）の様子】

【物語末尾の描かれ方】